

研究主題(令和元年度)

育成を目指す資質・能力に基づいた授業改善(Ⅱ)

～肢体不自由特別支援学校における「深い学び」の実現を目指して～

新学習指導要領においては、教育基本法、学校教育法などを踏まえ、**子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成していくことが**明示されている。具体的には、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、予測困難な新しい時代に対応した**資質・能力を確実に育むため、各学校においては、資質・能力の育成の手段としての「主体的・対話的で深い学び」**や教育課程に基づく教育活動の質を向上させる「カリキュラム・マネジメント」の確立が求められている。

研究の方向性

- (1) 「育成したい資質・能力」の三つの柱に基づいた肢体不自由特別支援学校における教科指導について考える。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて、**肢体不自由児の特性を踏まえて具体的に検討する。**

研究仮説

児童生徒へ育成したい資質・能力及び「身に付けさせたい力※」を踏まえた授業を通して、主体的、対話的な学びについて具体的な検討を行いながら授業を改善することで、深い学びを実現し、より授業の目標を達成しやすくする。

※本校では、子供たちに「身に付けさせたい力」のマトリクスを作成し、日々の授業づくりに活用している(図1)。

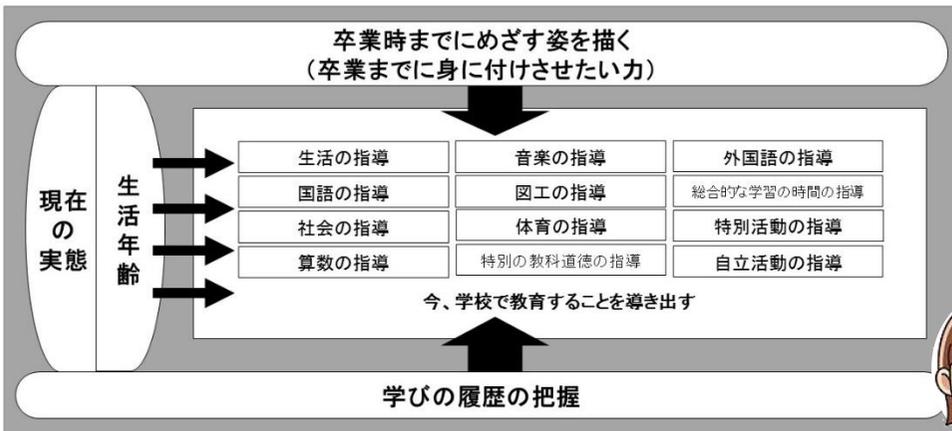
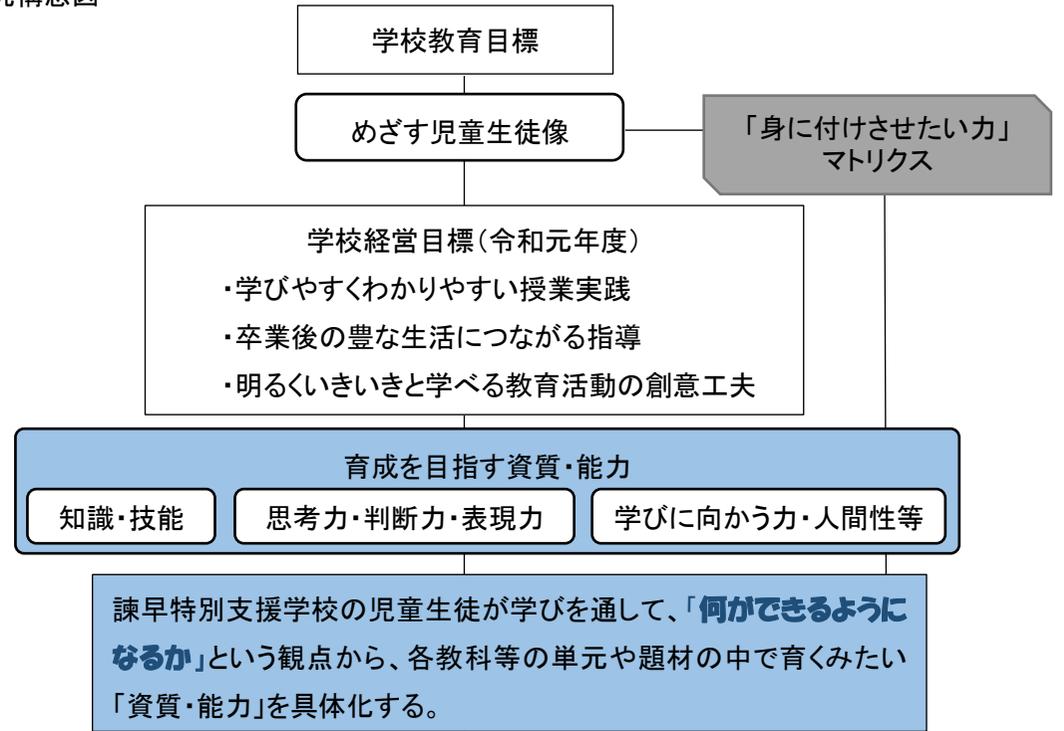


図1 授業づくりのモデル

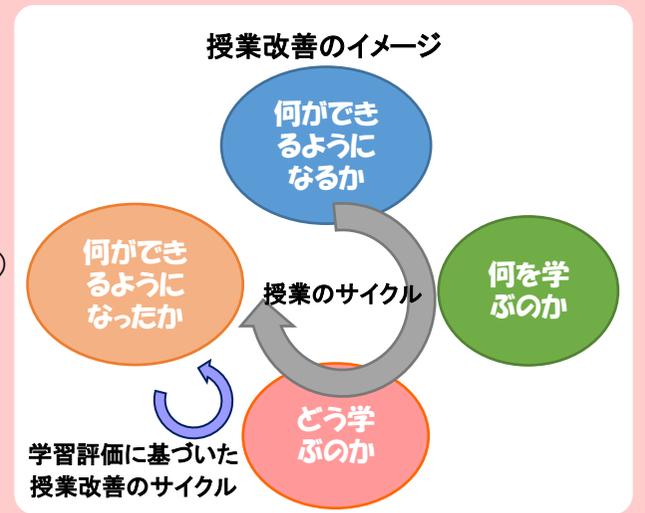
研究構想図



授業改善の手続

- ①資質・能力を具体化した観点別の目標設定と単元設定「**何を学ぶのか**」
- ②指導上(学習上)の課題の把握、学びの困難さの想定
- ③当初の策「**どう学ぶのか**」
 - ・主体的な学び ・対話的な学び
- ④授業の振り返り(授業評価)
- ⑤振り返りをもとにした改善策
 - ・深い学びの実現
- ⑥授業の振り返り(授業、単元の評価)

「**何ができるようになったか**」



○取組1 授業改善の手続「①資質・能力を具体化した観点別の目標設定と単元設定」「②指導上(学習上)の課題の把握、学びの困難さの想定」

各部協議
(小・中・高)

単元構想シートを使った単元の計画と学びの困難さへの対応

何を教えるのかについて、教科の目標を踏まえて明らかにする

単元構想シート

(高等)部 協議メンバー

1. 指導している教科の単元目標について

通常・**知的** 教科名(外国語)「英語で自己紹介をしよう」
 ・英語での月の言い方や序数、スポーツの言い方に慣れ親しみ、基本的な表現(I like~, My birthday is~, What○○ do you like?)を用いて自己紹介ができる。
 ・自分のことを紹介したり、相手の紹介を聞いたりする活動を通して、他者と英語でコミュニケーションを図る楽しさを知る。

2. 1の目標を達成するための単元計画

時数	主な学習活動	目標
1	チャンツに合わせて月名の言い方を知る。教師のクイズに	・世界と日本の祭りや行事に興味をもつ。 ・英語での月の言い方に慣れ親しむ。
1	次の人と尋ねながらゲームに参加する。	・誕生日は数字ではなく序数を使うことが分かる。 ・“My birthday is~”の表現を使って、自分の誕生日を発表したり、相手に尋ねたりする。
1	好きな色を伝え、次の人に“How about you?”と尋ねる。	・色と形の語句に慣れ親しむ。 ・色と形の語句から、日本語と英語の違いに気付く。 ・色や形を現す単語を聞き、具体物と一致させる。 ・“I like~”の表現を使って自分の好きな色を答えたり、相手に尋ねたりする。
1	スポーツに関する語を知る。	・スポーツに関する語を通して、英語と日本語の発音や表現の違いに気付く。 ・相手の好きなスポーツが聞いて分かる。
1	好きなスポーツを伝え、次の人に“How about you?”と尋ねる。	・自分の好きなスポーツや苦手なスポーツを“Yes/No”で答える。 ・“I like~”の表現を使って自分の好きなスポーツを伝えたり、相手に尋ねたりする。
1	好きな色やスポーツについて友達や教師にインタビューする。	・自分の好きな色やスポーツなどについて、尋ねたり答えたりして伝え合う。
1	自己紹介の基本的な表現について音声で十分に慣れ親しむ。	・短い自己紹介文を聞いて、その概要を理解する。 ・自己紹介に必要な英語での表現を覚える。
2	これまでに学習した簡単な語句や基本的な表現などを使って、自己紹介をする。	・相手に伝わるように工夫して自己紹介をする。 ・友達の自己紹介を聞き、誕生日や好みなどを理解しようとする。

どのような順序で、どのくらいの時間をかけて学ぶかを計画する

単元を計画したうえで、児童生徒がつかずきそうな場面について学びの困難さを想定する

3. 2の計画の中で、児童生徒がつかずきそうな場面について

- ①生徒の在籍学年が3学年にまたがっており生徒によって慣れ親しんでいる語彙や表現
- ②自分の考えや気持ちなどを伝え合うやりとりの場面で即興的な言葉のやりとりを行う
- ③やりとりの場面で慣れ親しんでいる語彙や表現を使って相手に伝えることはできるが音の記憶を保持しておくことが難しい。
- ④やりとりの場面で、慣れ親しんでいる語彙や表現を使って相手に伝えることはできるが、相手に伝わったことにあいづち表現(Really? Me,too. Wow. I see. Oh. no. One more time, please. I don't know)を使って返答することが難しく、決まった表現を使った活動にやりとりが終始してしまう。

4. 3の難しさに対応してどのような工夫や手立てが考えられるか

- 「主体的な学び」
- ・(①に対応して) チャンツやゲームを通じて音声で十分慣れ親しんだ後、話したり聞いたりに取り組む。
 - ・(②に対応して) 視線入力装置を活用して、生徒同士、生徒とALTとのやりとりを生かす。使用する表現はメモ機能に保存し、生徒が表現したいときにすぐに活用できるようにする。
- 「対話的な学び」
- ・(③に対応して) ペアの生徒とのやりとりの後に、やりとりから聞き取った内容を教師が白板に記入し、内容が合っているかペアで確認し合う活動を行う。
 - ・(④に対応して) 生徒同士が1回目の対話を行った後、生徒が伝えたくても英語で表現できなかったことはないかを確認する。質問者以外の生徒にも既習表現を想起させ、2回目の対話で使用を促す。
 - ・(④に対応して) 教師が会話モデルを見せることで、生徒が既習表現や新しい表現を想起できるような指導・援助を行い、対話を続けるための基本的な表現を増やす。

困難さに対応した工夫や手立てを、主体的・対話的で深い学びの視点※から検討する

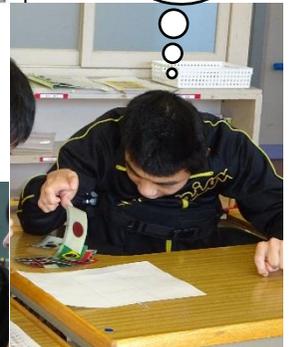
ゲームなどを取り入れ、主体的、意欲的に

5. 本単元で「深い学び」があったか

- ・視線入力装置を活用する、写真やイラストを使う、メモを活用するなど自分に合った方法で簡単な自己紹介を一人ひとりすることができた。
- ⇒相手の発表に対して、教師だけでなく生徒も一緒にフィードバックを行うなど評価の工夫が必要だった。
- ⇒相手の発言を聞き、より詳しく知るために、内容に関わる質問をするなどして、生徒同士のやりとりを増やすべきであった。

「深い学び」についての教師の気づき
後述「深い学び」に向けて参照

視線入力装置を活用して英語で自己紹介



※本校では、主体的・対話的で深い学びの実現に向け「平成30年度版 主体的・対話的・深い学びに向かう授業改善の視点」を作成し活用している。

(平成30年度 研究報告書参照)

○取組2 授業改善の手続「③主体的な学び・対話的な学び」

各部協議
(小・中・高)

主体的・対話的で深い学びの視点で実践を振り返る(一部抜粋)

主体的・対話的で深い学びの視点で1学期の実践を振り返る

(1)主体的な学びに向かう視点

①安心して取り組める

	視点	1学期の取組
ア	教師と子どもの信頼関係ができてい	生徒の日々の様子観察や保護者からの情報をもとに、生徒の状況を読み取りながら接するようになった。
イ	安全な環境(支持的・づくり)	次に繋がる声掛けをする。
ウ	学習環境(湿度、)れている	実態に応じて、配置を考えたり、保冷剤や扇風機を使用したりしている。
エ	自由に参加し	常に生徒の興味関心を引き出すような教材・題材を準備できるように心がけた。

「平成30年度版 主体的・対話的・深い学びに向かう授業改善の視点」の項目ごとに実践を振り返る

②学習の充実がもてる

	視点	1学期の取組
オ	おおまかな単元の構成や1時間の授業の流れをわかりやすく示している	授業の最初に簡単な言葉や板書で伝えるが、時間はかけていない。
カ	学習活動の具体的な内容や取り組み方をわかりやすく伝えている	映像や写真、イラストを取り入れたり、教師が手本を見せたりして視覚的に分かりやすくした。
キ	授業や学習活動の始まりと終わりがわかる	日目の合図で始まりと終わりを意識できている。
ク	学習活動や教材が	学習を取り入れ、
ケ	とされている	生徒と一緒に呼ん
コ	興味関心	エと同様の取組。
ク	好奇心や探求心が高まる題材や学習活動が組み込まれている	体験的な学習や操作ができる教材などを使用した。

・授業を主体的、対話的、深い学びの各視点からチェックすることが可能であり、振り返りのツールとしても有効でした。
・児童生徒の実態によっては、授業での設定が難しい項目もありました。



シ	子どもの特性や長所が生かされる学習活動が工夫されている	実態に応じて、自主的に取り組める活動を設定し、取り組ませた。
ス	友達と切磋琢磨したり、競ったりする活動場面がある	友達の活動を多く設定しているため。
セ	静的な活動と動的な活動が効果的に展開されている	「見る・する・聞く・話す」などを提示するものの位置などを考えている。

振り返りをもとに、今後の実践へ取り入れる視点の検討をする

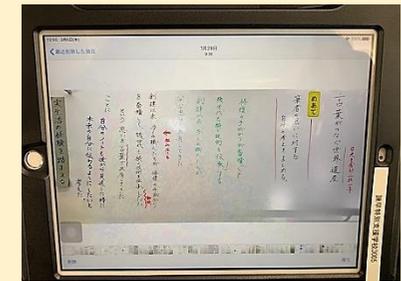
(2)対話的な学びに向かう視点

①対話しやすい学習環境

	視点	1学期の取組
ア	教師の声の大きさや話すスピードなど聞き取りやすい	それぞれで意識した。
イ	発表の仕方や友達の意見の聞き方などの学習ルールが示されている	各授業において適宜指導をしている。
ウ	お互いの意見を聞きやすい机の配置がされている	馬蹄形の配置をしている。
エ	意見を表明できる手段が整えられている	タブレットPCやポータブルスピーカー、カードを使うようにした。

②対話を取り入れた授業展開

	視点	1学期の取組
オ	教師の一方通行的な関わりではなく、子どもとの双方向的な関わりがある	カと同じ。生徒に考える時間を与える。
カ	子どもの発言や意見を引き出す発問が工夫されている	生徒がもっている言葉や表現を用いて、返答できる問いかけをして
キ	友達同士の話し合いや教え合いの活動場面がある	お互いに
ク	小集団や一対一学習における対話的活動が工夫されている(仮想クラスメートの設定や遠隔授業の活用など)	
ケ	児童生徒の思考が可視化されている	
コ	学びや経験を活かして考えている	横断科が



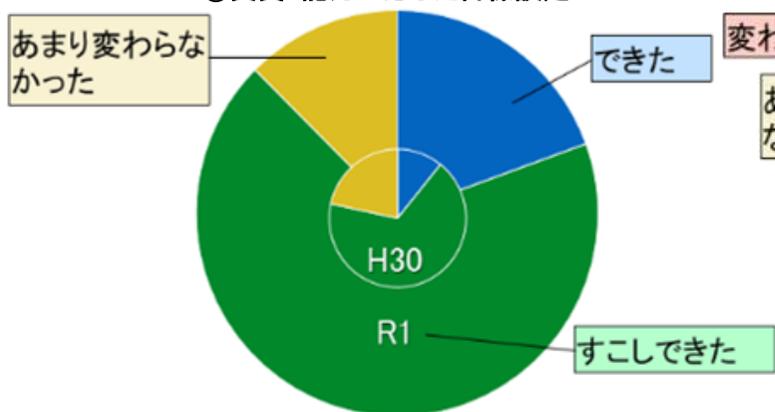
例)板書や配付プリントをタブレットPCに保存し、主体的に学ぶことができるようにする

○教師の意識調査(日々の実践を通して)

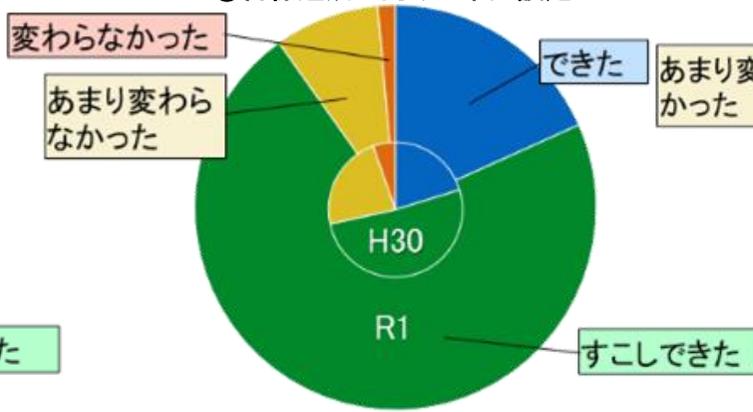
(%)

設問	回答			
	できた	すこしできた	あまり変わらなかった	変わらなかった
①「育成を目指す3つの資質・能力」に応じた指導目標の設定ができましたか？	19.4	68.1	12.5	0.0
②目標達成に向けた単元設定ができましたか？	18.3	71.8	8.5	1.4
③児童生徒の実態に応じ、主体的で対話的な深い学びを意識した手立てを講じることができましたか？	15.3	76.4	8.3	0.0
④新しい評価の観点に照らした学習評価ができましたか？	12.5	73.6	13.9	0.0
⑤学習評価を基に授業の改善の視点を導き出すことができましたか？	16.9	77.5	5.6	0.0

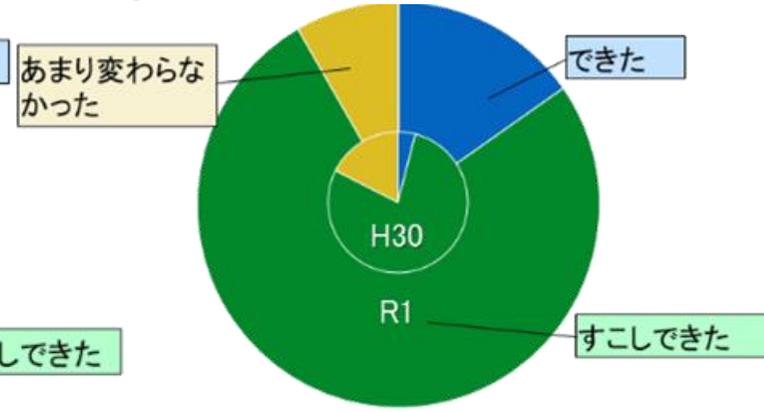
①資質・能力に応じた目標設定



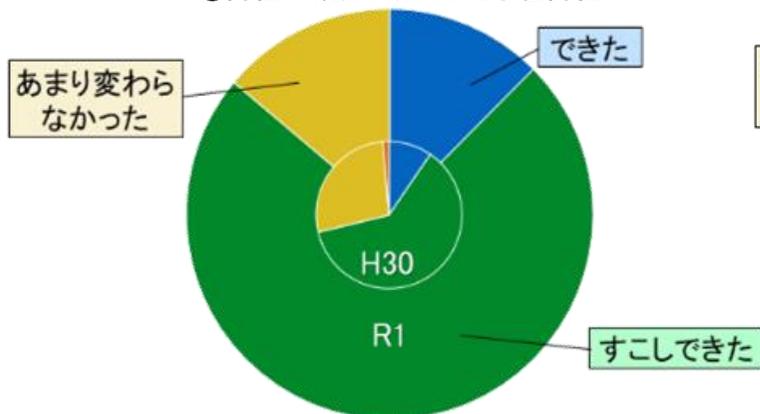
②目標達成に向けた単元設定



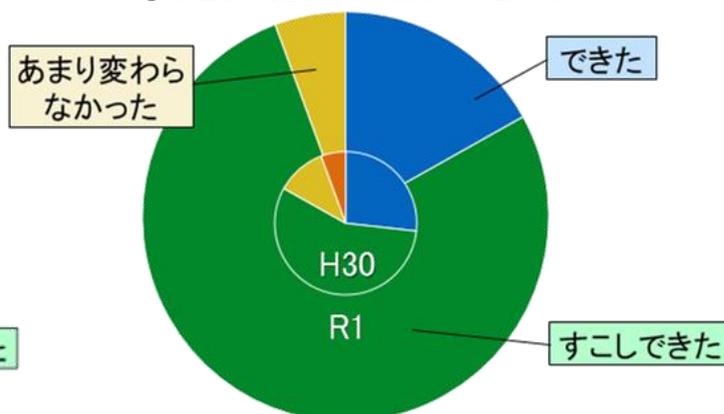
③主体的で対話的な深い学びを意識した手立て



④評価の観点に照らした学習評価



⑤学習評価を基にした授業改善の視点



前年度と比べ、授業の各プロセスに手応えを感じている教員が増えました。



○「深い学び」について

研究協議などであがった「深い学び」についての疑問点



本校の教師が実践の中で感じた「深い学び」の姿（一部抜粋）

- ・問いかけに対して、返事をしたり、しなかったりが**できる**ようになった（小学部：国語）
- ・楽器に意欲的に手を伸ばすことが**増えた**（小学部：音楽）
- ・**作品**を家に**持ち帰って**スイッチ遊びにつなげた（小学部：図工）
- ・自ら商品やお金を**店員に手渡した**（中学部：職業・家庭）
- ・周囲の様子や手元を**よく見るよう**になった（中学部：国語）
- ・学びを活かして**次の課題へ、もっと難しいものへの意欲**ができた（中学部：数学）
- ・聞くことが苦手な生徒が、**学習を積み重ね**集中できるようになった（高等部：国語）
- ・**簡単な语句や基本的な表現**を用い、全体の場で一人ひとり**発表した**（高等部：外国語）
- ・負けた原因や状況を**話し合う**、**授業以外の場面**で練習した（高等部：体育）

「深い学び」の姿とは
障害の程度に関わらず

- **力を発揮する姿**
- **学びを活かす姿**
- **力を般化する姿**

と仮定することができるの
ではないか

まずは、児童生徒が教師の意図通りの力を付けることができるよう計画し（指導目標の達成）、さらに、それ以上の力が発揮できることをねらった手立てや工夫も仕組んでいく必要がある。



今後の課題

- ・本校の教師が感じる「深い学び」とは、教師が意図した学び（またはそれ以上の学び）の実現といえる。「深い学び」に導くためには、障害の状態に応じた手立てだけでなく、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることができる手立てや工夫を検討する。
- ・学習指導要領の目標に準拠した、新しい評価の観点に基づく評価規準（学校で設定した各教科の内容のまとめりごとの評価規準）を踏まえた授業実践を積み重ねていく必要がある。